

安全と基準

～環境分野と放射線防護分野におけるリスク受容とその管理～

村上道夫¹⁾

東京大学生産技術研究所

2011年の原発事故以来、放射線防護分野だけでなく、環境分野の研究者や行政官にとつても、放射性物質をいかに管理するか、という課題は最大の関心ごととなった。環境分野と放射線分野のリスク管理手法は、それぞれ異なる独自の進化、ないし、変化を遂げてきたように見えるが、放射線防護分野と環境分野でのリスク管理の歴史的経緯をたどれば、両分野とも「受け入れられるリスク」に関して議論を進めた点など、そこには共通点と親和性があり、両分野の相互的理解はもっと深まってもいいように感じる。

そこで、本講演では、放射線防護分野と（特に水道分野を中心とした）環境分野におけるリスク受容とその管理方法についての歴史的経緯と現況について言及する。とくに、環境分野では化学物質だけではなく、病原性微生物に関する管理手法についても紹介する。当日の講演内容は以下のとおりである。

1. 放射線防護分野におけるリスク受容とその管理
2. 環境分野におけるリスク受容とその管理
 - 1) 閾値ありの化学物質の基準の決め方
 - 2) 閾値なしの化学物質の基準の決め方
 - 3) 病原性微生物に関する基準の決め方
3. 基準とリスク管理はどうあるべきか

本講演で、放射線防護分野と環境分野の垣根がなくなり、両分野の交流がさらに進むことを期待している。

以上